

## 近畿産業考古学会

The Kinki Industrial Archaeology Society

## 第132号

## 目次

1. JR 桜井線・駅舎の見学会 . . . . . 1
2. ユニチカ記念館の見学会 . . . . . 2
3. 「2023 年度総会・午前中の見学会」見学記  
 . . . 寺島俊之 . . . 2
4. 2023 年度総会行事報告 . . . . . 3
5. 2023 年度総会議案書議決結果の報告 . . . . . 4
6. 学会誌の電子ジャーナル公開について . . . . . 6

## JR 桜井線・駅舎の見学会

JR 桜井線（1893(明治26)年開業，1899(明治32)年に奈良駅-高田駅間全通）には駅舎の歴史的建造物が多く残され，保存活用も進められています。これら駅舎のうち，畷傍駅と帯解駅を中心に，保存活用に取り組む団体の方々にご案内いただいて各駅舎を見学するとともに，保存活用の現状と課題について意見交換を行います。

開催日：5月27日(土)

集合：近鉄橿原線「八木西口」駅改札口，12：30（または，JR 桜井線「畷傍」駅改札口，12：40）

主な見学先：

- ・畷傍駅舎：12：40～13：30  
「JR 畷傍駅舎の保全活用を進める会」の米村博昭会長と「NPO 法人八木まちづくりネットワーク」平田元理事のご案内で駅舎と貴賓室の内部を見学します。  
13：31 同駅発の列車で「帯解」駅に向かいます。
- ・帯解駅舎（登録有形文化財）：14：00～15：15  
「帯解駅舎保存・活用の会」の木原勝彬代表のご案内で駅舎を見学し，その後，近くの公民館で帯解駅の保存改修についての説明をいただき，意見交換を行います。
- ・オプション見学（帯解駅見学終了後）  
「樺本」駅か「京終」駅を見学します。  
同駅 15：28 発「奈良」駅方面行きの列車があります。

資料代：500 円。

桜井線の本数が少なく，また行程の都合上により，いつもより早い集合時間となります。ご了承下さい。

参加希望者は5月24日(水)までに，事務局宛にメールかFAXにてお申し込み下さい。



写真1 畷傍駅舎の全景（撮影：岡田広一，2023/04/26，上下左右を一部カット）



写真2 プラットホームから貴賓室へ下りる階段（撮影：岡田広一，2023/04/26）



写真3 「畝傍」駅の貴賓室 (撮影：岡田広一, 2023/04/26)



写真1 2階展示室 (撮影：二階堂達郎, 2011/02/25)



写真4 貴賓室に隣接する水洗便所

(撮影：岡田広一, 2023/04/26)

わが国で国産の水洗便器を本格的に製造したとされる「東洋陶器 (現 TOTO)」の便器や洗面台が設置されている。



写真2 工場で棟式に用いられた破魔矢の展示

(撮影：二階堂達郎, 2011/02/25)

写真3 階段  
(撮影：二階堂達郎,  
2011/02/25)



### 「2023 年度総会・午前中の見学会」見学記

寺島俊之

4月15日(金)に頭記の見学会を開催した。大阪市立住まいのミュージアム・大阪くらしの今昔館 (大阪市北区) 8階受付前に10:30に集合。参加者は18名であった。

当館は大阪市住宅供給公社によって2001年に開設された博物館相当施設である。歴史系ミュージアムに分類され、大阪の「住まい」を中心に「暮らし」から「町づくり」までをテーマとする。最大の特徴は1830年代(天保年間)

### ユニチカ記念館の見学会

昨秋、ユニチカ社から尼崎市へ寄贈されたユニチカ記念館の見学会を実施します。尼崎市立歴史博物館の桃谷様のご案内で、主に館の内部と展示品を見学し、その後、保存・活用についての意見交換を行います。少人数(10人以下)で行うため、2回に分けて開催します。申込時に第1希望と第2希望をお伝え下さい。

本見学会は産業遺産学会との共催で開催します。

- ・開催日：[1回目]6月6日(火)，[2回目]6月13日(火)
- ・集合：阪神電鉄「大物」駅改札口，13:00
- ・見学行程：

①「大物」駅下車後、地図・資料などで尼崎紡績工場の跡地や当時の周辺の状況を確認しながら、ユニチカ記念館に向かいます(通常の所要時間は徒歩で約7分)。

②記念館の内部および展示の見学

③記念館の保存・活用についての意見交換

資料代(予定)：500円。

参加希望者は6月2日(金)までに、事務局宛にメールかFAXにてお申し込み下さい。



における大坂の町並みを実物大で再現した展示である。近年は外国人観光客も多数来館し人気の集客施設となっている。展示では以下を見学した。

①企画展「大阪の長屋」（会期：2月25日～4月16日）

学芸員の深田様に出迎えて頂き約1時間のガイドツアーを実施した。展示は三つの時代区分で分類される。

◇近世

大坂における町人の住宅は長屋が一般的であった。長屋は表長屋と裏長屋に分けられ、表長屋は店舗兼住宅とされ裏長屋は住居専用が多かった。他都市と比べると、瓦屋根が多い点と表長屋が多い点が大坂における近世長屋の代表的な特徴とされる。

◇近代

大阪では貸し手を家主（いえぬし）と呼ぶ。公営や企業の住宅地開発による長屋経営の誕生が近代長屋の特徴の一つである。昭和戦前期になると職住分離による住居特化型も増え、和風・洋風・和洋折衷と外観も多様化が進んでいった。

◇現代

戦後、高度経済成長からバブル崩壊を経て長屋が激減する中で、その再生や活用が注目を集めている。大阪公立大学でも2011年度よりオープンハウスイベントである「オープンナガヤ大阪」を毎年秋に開催している。主にリノベーション事例を中心とした模型展示であった。

②常設展示

11:30より昼食休憩も含んで自由見学とされた。入館受付は8階であるが10階までエスカレーターで登り9階、8階と進む順路構成である。

◇10階

展望フロアである。9階展示室の実物大町並みを一望する。

◇9階

1830年代(天保年間)の大坂の町並みを実物大で再現する。近世長屋を体感できる人気のエリア。

◇8階

モダン大阪パノラマ遊覧をテーマとし、動きのあるジオラマ模型とレトロな暮らし道具を展示する。模型の縮尺は1/100と1/50で揃えられている。



写真1 企画展の見学シーン

今回の見学会を開催するに当たり、深田様にお世話になりました。厚く御礼申し上げます。

2023年度総会行事報告

寺島俊之

日時：2023年4月15日(土)、13:30～17:00

会場：大阪市くらしの今昔館5階研修室1

挨拶：中山嘉彦会長、司会：岡田幹事、ホスト：貝柄幹事

参加者：18名

対面開催とWeb会議ソフト(ZOOM)によるハイブリッド方式で実施した。会場の通信環境がよくなかったため、参加者にご迷惑をお掛けしたことをお詫びします。

特別講演会(13:30～15:00)

「大阪の近代長屋について」

和田康由氏(元大阪市立高校建築科教諭)

日本における長屋調査は寺内信による1972(昭和47)年の研究報告に始まる。和田康由氏は1974(昭和49)年より研究に参画し、大阪市街地における長屋建築を以下の手法で解明した。

①長屋を定義

近代法制などの公布事項より長屋を定義した。

②史料調査

大阪市域の人口状況や貸家状況などを行政記録より調査した。

③調査対象地区

戦災直後の空中写真や戦災焼失図などから抽出し、スプロール地区や区画整理地区などを取り上げた。

④実地調査

住宅構造や規模および経営形態などを類型化した。

⑤年表

市域や人口、建築制度、住宅地関連事項の三項目を列見出しとして年表にまとめた。

21世紀になると近代長屋も文化財に指定されるようになった。2003年に寺西家・阿倍野長屋が国登録有形文化財に指定され、現在まで4件が文化財登録された。

人気の長屋は「トヨクニハウス(大阪市都島区1932(昭和7)年築)」である。国内最古級の鉄筋コンクリート住宅であるが、高級低層マンションを思わせる外観が評判を呼んでいる。こうした長屋の利活用によって若者が集い、地域活性化につなげて行きたい。

質疑応答では「長屋の1階を町工場とし、2階を住居とした起業家もいたのでは？」および「建築資材、特に瓦屋根の供給地は？」などが議論された。

研究発表講演会(13:10～17:00)

(1)「王子公園の歴史的意義と今日的課題」

橋本健治氏(本会会員)、中尾嘉孝氏

神戸市立王子公園(灘区)には動物園・遊園地・競技場

等が立地する。界隈は近世まで原田神社の神域とされ「原田の森」と呼ばれていた。公園の一角にある神戸文学館は関西学院のチャペルとして建てられた赤レンガ建築である。1889(明治22)年に開学した関西学院は1929(昭和4)年に西宮市上ヶ原に移転するまで、現在の王子公園にキャンパスがあった。

現在、神戸市役所では王子公園の再整備と大学誘致を計画中である。阪急神戸線王子公園駅前という好立地と発祥の地という歴史的意義から関西学院が応札する可能性が高い。しかし大学誘致には都市公園の指定解除や競技場の移転等が不可避である。

王子公園は「日本貿易産業博覧会(神戸博)1950(昭和25)年」の跡地でもあった。水泳プールや動物園等は博覧会開催時に恒久施設として建築された経緯もある。大学誘致が実現すると予定地に所在する競技場が公園に玉突き移転となり、反対意見もあり今後の動向が注目される。



写真2 橋本氏、中尾氏による研究発表の様子

(2)「栗原邸紹介ビデオの放映」

若林あかね氏(本会幹事)

「栗原邸」は京都市山科区に位置する住宅建築である。1929(昭和4)年に染色学者である鶴巻鶴一の自宅として琵琶湖疏水に近い景勝の地に建てられた。

特殊な鉄筋コンクリートによるモダニズム建築が評価され、2014(平成26)年には国登録有形文化財に認定された。約1時間の映像記録は以下で構成される。

1. オープニング
2. 本野精吾とモダニズム
3. ウィーン分離派的デザイン
4. 鶴巻鶴一とろうけつ染め
5. 中村鎮の鎮ブロック
6. 栗原邸の歴史
7. 進駐軍の痕跡
8. 教育プログラムによる修復作業
9. エンディング

当住宅を1941(昭和16)年に鶴巻鶴一氏より取得した、栗原伸(のぶる)氏は日本最古の広告代理店であった萬年社(1890~1999年)の第三代社長である。没後、コレクションは大阪中之島美術館に寄贈された。

栗原邸は歴史的・文化的価値が高く、通常非公開である。今年度、5年ぶりに一般公開される予定。

- ・公開日:2023年5月27日(土),28日(日),6月3日(土),4日(日)
- ・公開時間:10:00~17:00
- ・入場料:一般1,000円:学生500円(事前申込不要)

## 2023年度総会議案書議決結果の報告

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大のため、総会の実開催を取りやめ、特例措置として、下記の総会議案のメールや書面による議決を行った(回答期限:4月22日)。

1. 2022年度事業報告案
2. 2022年度決算報告案
3. 2023年度事業計画案
4. 2023年度役員案(再任者:瀬川監査)
5. 2023年度予算案

会員数56名、回答者数31名、賛成者数31名

総会議案の議決については、前年度と同様、会則の第13条「総会は会員総数の4分の1以上の出席によって成立する。ただし、委任状の提出により出席に代えることができる。」と第14条「総会の議事は、第17条の場合を除いて、出席会員の過半数をもって決する。」を準用し、会員総数の4分の1以上の回答と過半数の賛成をもって承認されたと見なす。

## 2022年度事業報告案

(2022年4月1日~2023年3月31日)

1. 総会  
新型コロナウイルス感染拡大のため、対面開催を中止し、議決事項は4月23日付で書面・メールにより承認された。
2. 総会講演会・研究発表講演会(2回)  
◇総会講演会(4月16日,オンライン開催)  
・特別講演  
「大阪湾岸臨海工業地帯・景観調査の記録映像から」  
貝柄 徹氏・二階堂達郎氏(いずれも大手前大学史学研究所構成員,本会幹事)  
◇年次大会・講演会(11月19日,オンライン開催)  
・特別講演  
「近畿産業考古学会見学会の動向」  
寺島俊之氏(本会幹事)
3. 見学会(3回)  
◇文学作品に記録された近畿の鉄道と都市景観(神戸市中心部 その1,2022年5月28日) 諏訪山児童公園・金星台,移住ミュージアム,北野異人館街・トアロード・神戸ムスリムモスク  
◇シマノ自転車博物館(堺市,2022年9月24日)  
◇堂島・蔵屋敷跡と北浜・金融街を巡る(大阪市中央区・北区,2023年3月9日) 大同生命保険株式会社大阪本社,手形交換所跡・三井住友銀行大阪本店ビル,長州藩蔵屋敷跡,中津藩蔵屋敷跡・福沢諭吉誕生地,米会所跡,

佐賀藩蔵屋敷跡・船入橋跡、曾根崎川跡、水晶橋、近代中之島・北浜の景観、大阪取引所・金相場会場所跡

#### 4. 調査・研究活動

##### ◇関西電力堺港発電所旧施設調査

会員の協力を得て関連調査を実施し、調査報告書を発行した(貝柄 徹・岡本篤志・二階堂達郎「関西 電力堺港発電所旧汽力発電施設調査報告書」『大手前大学史学研究所研究報告』第22号, 2022年).

##### ◇津守下水処理場調査

会員の協力を得て調査開始した.

#### 5. 産業遺産保存活用事業(連携事業を含む)

特になし.

#### 6. 学会誌『近畿の産業遺産』第16号の発行

2022年9月15日に発行した. 論文:1点, 調査報告:1点, 講演記録:2点, 資料:1点である.

##### [論文]

- ・「近畿日本鉄道奈良線 一軌道位置・電車線路のあゆみー」 中山嘉彦

##### [調査報告]

- ・「イギリス都市景観の保全と再生 ーリバプールとロンドン・ハムステッドを主としてー」 安田 孝

##### [講演記録]

- ・「近畿地方における鉄道産業の立地」 中山嘉彦
- ・「文学作品に記録された近畿の鉄道と都市景観ー神戸・阪神間を中心にー」 岡田広一

##### [資料紹介]

- ・「1950年代半ば大阪発信雑誌「サイクリングツアー」 広告と総目録」 貝柄 徹

#### 7. ニュースレター(原則として隔月発行)

第125号(2022年4月)~第130号(2023年1月)の6号を発行した.

#### 8. 2022年度役員会(すべてオンライン開催)

2022年

◇第1回(5月11日)

◇第2回(7月6日)

◇第3回(9月7日)

◇第4回(11月2日)

2023年

◇第5回(1月11日)

◇第6回(3月29日)

※事業報告案中, 見学会で一箇所(シマノ自転車博物館)欠落していましたので訂正させていただきます.

#### 2022年度決算報告・監査報告

(2022年4月1日~2023年3月31日)

[収入の部]	(円)
会費(会員:57名, うち法人会員1, 名誉会員1)	155,000
学会誌売上(@2,000×8冊)	16,000
研究発表講演資料代	0
見学会資料代(@500×49名)	24,500

学会誌掲載論文超過ページ負担金	83,760
寄付金	0
雑収入	0
収入合計	279,260

[支出の部] (円)

総会・年次大会運営費(会場費, 謝礼)	5,150
学会誌出版費(印刷費, 送料, 振込手数料含む)	226,160
ニューズレター・資料集印刷代	21,184
通信費(ニューズレター・各種文書の送料, はがき代)	23,986
ホームページ管理費(ドメイン登録料, 更新料含む)	34,650

物品等購入費	9,740
会議室利用料	0
その他(学会誌表紙デザイン)	10,110
支出合計	330,880

[収支] △51,720

前年度繰越金	219,732
次年度繰越金	168,012

[手許現金・預貯金残高内訳] (円)

現金	△1,114
ゆうちょ銀行残高	148,203
三菱東京UFJ銀行(梅田中央支店)	25,923
合計	168,012

2022年度決算の内容を監査し, 相違ないことを報告いたします.

2023年3月31日 監査 瀬川 健

2023年3月31日 監査 林 正樹

#### 2023年度役員案(幹事・監査, 任期は2年)

役員会より下記案を提案いたします(任期2年. 幹事は任期途中で, 本年度の提案はございません).

- ・監査: 瀬川 健(再任), 林 正樹(継続)

#### 2023年度事業計画案

(2023年4月1日~2024年3月31日)

1. 総会議決事項の書面による議決  
新型コロナウイルス感染拡大の収束が見通せないため, 総会の対面開催を断念する. 総会議決事項は, 本年度も特例措置として書面・メールにより承認を得ることとする. 議決の方法は会則の規定を準用する. 一方, 総会行事特別講演会はハイブリッド方式で開催する.
2. 年次大会の開催(10月または11月)
3. 見学会の実施(約4回)

本学会の特徴を活かして付加価値を高めた見学内容にし, また, 会員の要望や提案を反映させ, 協力を得て実施することに努める.

当面, 新型コロナウイルス感染防止策を講じながら

- 実施する。熱中症へ対応するため、夏期の実施を避ける。
4. 役員会の運営  
感染症への対応に加え、経費節減、役員会業務効率化、役員負担軽減のため、オンライン開催を継続する。
  5. ニュースレターの発行  
第131号～136号を行事開催のタイミングに合わせて柔軟に発行する。より多くの会員の投稿を求める。
  6. 学会誌『近畿の産業遺産』第17号の発行  
第16号に引き続き、投稿規程を柔軟に運用して資料紹介等の原稿ジャンルを拡大し、ページ数制限も緩和してより多くの会員の投稿を求める。表紙デザインには謝礼を支払う。
  7. 学会誌のリポジトリ対応・電子ジャーナル公開 (J-Stage)  
論文の適格性を判断しながら、執筆者の意向も尊重し、公開を進める。
  8. 調査・研究活動の強化  
研究機関のプロジェクトや科学研究費助成事業などの調査・研究への参加を追求する。
  9. 連携事業の推進  
産業遺産学会や他学会、諸団体などとの連携を推進する。
  10. 会員の増員  
2022年度の入会者はなく、会員数の漸減傾向が続き、2023年3月29日現在、56名（うち法人会員1団体、名誉会員1名）である。目標を5名として入会促進を図る。

## 2023年度予算案

(2023年4月1日～2024年3月31日)

[収入の部]	(円)
会費（会員：56名，うち法人会員1，名誉会員1）	167,000
学会誌売上（@2,000×10冊）	20,000
研究発表講演資料代（@500×20名（総会））	10,000
見学会資料代（@500×60名）	30,000
寄付金	0
雑収入	0
収入合計	227,000
[支出の部]	(円)
総会・年次大会運営費（会場費，謝礼）	20,000
学会誌出版費（印刷費，送料，振込手数料含む）	130,000
ニュースレター・各種文書印刷代	25,000
通信費（ニュースレター・各種文書の送料，はがき代）	25,000
ホームページ管理費	30,000
物品等購入費	10,000
会議室利用料	0

その他（学会誌表紙デザイン，手土産）	15,000
支出合計	255,000
[収支]	△28,000
前年度繰越金	168,012
次年度繰越金	140,012
本年度も役員会等の会議のオンライン化を行い、会議室利用費をゼロにする。総会収入（研究発表講演資料代等）と支出（大会運営費）の減少を見込む。	
また、見学会の開催回数を昨年度より増やし、関連する収入（見学資料代等）および支出（見学会諸経費）の増額を見込む。なお、学会誌投稿規定頁数を大幅に超える場合、若干の手数料を徴収する。	
ニュースレター、見学資料集、その他文書の印刷は引き続き商業サービスを利用するため、印刷経費の支出を計上する。	
収入と支出とも減少するが、収支は赤字になり、2022年度より赤字幅が拡大することを見込む。	

## 学会誌の電子ジャーナル公開について

執筆者の要望に基づき、下記の論文（講演記録）を先行して（4月30日）掲載・公開しました。

岡田広一「文学作品に記録された近畿の鉄道と都市景観—神戸・阪神間を中心に—」（第16号掲載）

引き続き、第5号以降の論文の掲載作業を進めます。

科学技術振興機構(JST)より提供された2023年3、4月分のアクセス統計（クローラーによるアクセスを除外）の概要です。

- 2023年3月：  
掲載論文数（これまでに掲載済みの分）：16  
書誌事項へのアクセス数：合計 78回  
全文PDFへのアクセス数：合計 110回  
（アクセス数が最も多かった論文：書誌事項；23回，全文PDF；35回）
- 2023年4月：  
書誌事項へのアクセス数：合計 139回  
全文PDFへのアクセス数：合計 140回  
（アクセス数が最も多かった論文：書誌事項；34回，全文PDF；20回）

2023年5月15日発行  
 編集 近畿産業考古学会 編集委員会  
 発行 近畿産業考古学会 会長 中山嘉彦  
 URL : <http://kinias.jp>  
 事務局 564-8511 大阪府吹田市岸部南2丁目36番1号  
 大阪学院大学 経済学部 中山嘉彦研究室気付  
 Tel : 06-6381-8434 (代) , Fax : 06-6382-4363 (代)  
 E-mail : [kinias-ec@nifty.com](mailto:kinias-ec@nifty.com)  
 会費納入先(郵便振替)  
 口座番号：00950-9-150085，加入者名：近畿産業考古学会